

議会運営委員会・
議会基本条例推進委員会

平成25年1月29日～30日

議会基本条例とIT関連について

(千葉県流山市)

ICT（情報通信技術）を通じた議会運営の公開などは流山市は早い段階から取り組んでいた。本会議場のスマートフォンによる採決や、パワーポイントを用いた一般質問の実施などは他市議会をリードしている。

特に委員会のインターネット中継について、秋葉原の電気街で安価に購入したウェブカメラや音響機器を使用しコストをかけずに実施している点は、本市議会としても大いに参考にしたいところである。一方、市民の議会運営への参加については課題があり、特に議会報告会への参加者数の少なさは、運営に工夫が求められている。市民の議会に対する関心を高めることは容易ではないが、ICTの活用という切り口で開かれた議会を目指し、結果的に各種調査で議会改革度ランキングで全国1位になったことは、ひと

つの成果である。

塩尻市議会としても、こういったICTの導入についてコスト面で容易な導入を可能にする確かな目を事務局も含めてもち、開かれた議会を目指していきたい。

公会計改革・事業評価制度について

(東京都)

国、地方の官庁会計は、明治時代からの「大福帳」（金銭出納帳）が基本。この会計の仕組みは、単純にお金の出入りを記録する単式簿記、そして、実際に現金のやりとり



ICTの活用について説明を受ける

諸国の官庁会計はこの方式だ。単式簿記は、取引の結果だけを現金の増減として把握する。これに対し複式簿記は「結果」だけではなく、どのような取引によって現金の増減が発生したのかという「原因」も記録する。原因・結果の二つの視点から会計処理を行うので複式簿記と呼ぶ。

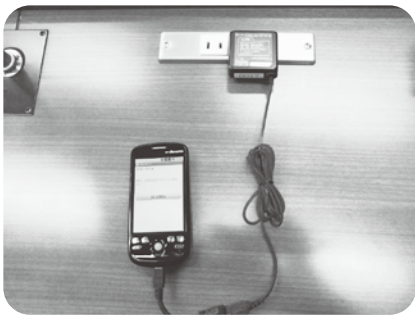
発生主義とは、実際に現金のやりとりがなくても取引が確定（発生）した時点で会計処理を行うことで、現状をリアルタイムで把握できる。塩尻市としても、民間感覚

の行財政運営を目指すのであれば、そのような視点を持ち、研究すべきである。

があつた時に計上する現金主義に基づいている。単年度ごとに、単式簿記・現金主義で帳尻を合わせるので「今年度さえしのげればいい」「後のことは次の年度に考えよう」という「その場しのぎ」である。こうした「大福帳会計」の下では将来を見通した財政再建はできない。

単年度主義の公会計は、民間企業のような経営感覚が育たず、予算執行後の余剰金についても積み立てるといった発想が生まれてこない。こういった経営感覚を導入するためには、公会計制度を複式簿記・発生主義に替えなければならない。

複式簿記・発生主義とは、民間企業が採用している会計処理であり、国際的にも主要



スマートフォンによる電子採決を体験



東京都庁にて説明を受ける